

インタビュー 2013 WUSV 世界選手権 服従審査員 益田晴夫

自己紹介に関する質問：

名前：益田晴夫（ますだはるお）

年齢：49 歳

職業：ドッグスクール経営

既婚：はい

子供：いません

いつから訓練審査員？：1994 (FCI-IPO), 2010 (SV, WUSV)

いつから SV 会員？：1988

いつからドッグスポーツを？：1978

いままで何頭の犬を訓練しましたか？：SchH, IPO に関しては約 20 頭

ハンドラーとしての成功は？（重要なものだけ）：

Asia Championship

2003 MAR 29	D-1 Asia Championship	Xander van't Enclavehof	100	97	99	296 V	Asia Champion
2002 MAR 31	D-1 Asia Championship	Xander van't Enclavehof	100	97	99	296 V	Asia Champion
1998 DEC 13	FCI Asia Championship	Qinto von Haus Nuyens	93	98	98	289 V	Asia Champion
1997 APR 11	FCI Asia Championship	Orry von Haus Antverpa	99	99	99	297 V	Asia Champion
1996 NOV 11	FCI Asia Championship	Qinto von Haus Nuyens	99	99	94	292 V	Asia Champion
1995 NOV 19	Asia Championship in Taiwan	Orry von Haus Antverpa	94	97	98	289 V	Asia Champion
1995 NOV 13	FCI Asia Championship	Orry von Haus Antverpa	97	96	98	291 V	Asia Champion
1994 NOV 12	FCI Asia Championship	Orry von Haus Antverpa	99	98	98	295 V	Asia Champion

World Championship

2009	FCI	Austria	Tell von Kyoto Masuda	98	91	93	282 SG	6th (Best DSH)
2005	WUSV	France	Xander van't Enclavehof	97	94	95	286 V	3rd
2000	WUSV	Belgium	Qinto von Haus Nuyens	94	99	97	290 V	4th
1999	WUSV	Germany	Qinto von Haus Nuyens	99	96	96	291 V	4th
1998	WUSV	USA	Qinto von Haus Nuyens	94	98	88	280 SG	9th
1996	WUSV	Finland	Orry von Haus Antverpa	98	96	99	293 V	World Champion
1996	FCI	Luxembourg	Orry von Haus Antverpa	99	98	98	295 V	World Champion
1993	WUSV	Netherlands	Orry von Haus Antverpa	90	98	97	285 SG	5th

いままで審査をした国は？：

日本、台湾、韓国、中国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカ、チリ、ベルギー、オランダ、スロバキア、ドイツ、スロベニア

繁殖はいつから？：1986

繁殖回数：86

犬舎号：von Kyoto Masuda

繁殖者としての成功は？（重要なものだけ）：

Top von Kyoto Masuda（2012 WUSV 世界選手権 SG）

Tell von kyoto Masuda（2009 FCI-IPO 世界選手権 6 位 ドイツシェパード最上位）

DSH-Spezial:

先ずは世界選手権での審査お疲れ様でした。私が思うところでは、観衆のほとんどが、あなたの審査に対して満足していました。たった一度だけ、一部の観衆がブーイングする場面もありましたが、あなたはそのときも極めて冷静だったのが印象的でした。

あなたは普段、出場者として WUSV 世界選手権に参加されていますが、出場者のほうが気楽なのではないですか？

Haruo Masuda

大きな競技大会に参加するというのは、出場者であっても審査員であっても、とてもハードなものです。私は普段、出場者として参加しているときでも、自分の出番以外のときは、常に審査員としての目線でスタンドから観戦しています。ですから、遠くから見るか、あるいは近くから見るかの違いだけです。今回は自分の犬の出番はなかった。ただその点が違うだけです。

DSH-Spezial:

あなたは今現在もアクティブなハンドラーおよび訓練者です。そのことは、あなたが審査員という立場にあるときにどのように重要ですか？

Haruo Masuda

常にアクティブな訓練者、ハンドラーであるということは、私が審査員として評価を下すために不可欠な要素です。私にとって訓練をやめるということは、審査員をやめるということに等しいと思っています。犬の訓練を長い間せず、あるいは訓練経験がない者が審査をする。というのは不可能です。

DSH-Spezial:

あなたは犬を連れてヨーロッパに来た場合、トレーニングをするにあたって、“練習仲間”を選定することは困難なことですか？

Haruo Masuda

皆さんが思っておられるほど、ヨーロッパで沢山のトレーニングをすることはありません。私はそれよりも、人間関係を大切にすべきだと考えています。夏の時期に益田はヨーロッパに居ることは有名です。それは犬のトレーニングのためでもあります。ヨーロッパの友人と夏を過ごすという意味もあるのです。わたしは 20 年以上、日本でもヨーロッパでも、同じ場所で同じ友人と訓練をしています。

DSH-Spezial:

私の観点から、あなたの世界選手権での 4 日間の審査には“ブレ”がなく、一定のラインがはっきりと見えた審査でした。あなたにとって 4 日間、集中を保つというのはハードなものですか？

Haruo Masuda

私は 4 日間で自分が疲れてしまっていると感じたことは一度もありませんでした。ただし毎日、健康に留意し、消化の良いものを食し、アルコールを飲まず、早寝を心掛けました。そして、審査中は常に集中を保つために糖分補給を心掛けました。

DSH-Spezial:

ズバリあなたの今回の世界選手権の印象は？（運営、スタジアム、雰囲気、サービスなど）

Haruo Masuda

何かを語ると批判ととられるのでコメントはできるだけ控えたい。日本にもドイツにも同じことわざがあります、“終わり良ければすべて良し”。ただし、スタジアムと天気は 25 年間の世界選手権の中で間違

いなく最高のものでした。インターネットでの情報発信スピードと情報量はもっと効果的であるべきだったと思います。

DSH-Spezial:

今大会では6頭が1グループとなって服従と防衛を交互に行ないましたが、あなたはこのシステムについてどう思われますか？

Haruo Masuda

4頭では少ない、8頭では多い（審査員の集中力の問題）。防衛ヘルパーに関してもそう言えます。

DSH-Spezial:

今年の総合的な訓練の質をどう感じられましたか？

Haruo Masuda

訓練の質は高い。残念なことに「前進と伏せ」の課目で失敗する犬が多かった。そのことが影響して、今年は服従のSG評価が少なかった。

DSH-Spezial:

この服従という課題は、今後どのように発展していくと思いますか？

Haruo Masuda

IPOの競技人口を増やすということが目的なら、色々な改革が必要です。しかし、そのことが目的でないのであれば、なんの議論も始まらないと思います。

DSH-Spezial:

近代的な訓練方法の導入や開発によって“服従”は、より技術と正確さを求められていますが、犬が意欲的かつ喜んで行なっているのであれば、少しのミスがあってもよしとすべきでは？

Haruo Masuda

犬が本当に意欲的に行なっているのか？犬が本当に喜んで行なっているのか？しかし、それはただ落ち着きがない態度なのかもしれない。そのことを見誤る訓練者と審査員がとても多い。我々が取り組むべきことは、意欲的で、技術を伴って正確で、そしてどの場面でも集中している服従。

DSH-Spezial:

失敗の多かった課目は？その原因は？

Haruo Masuda

前進と伏せ。犬がある目標物に向かって走るように、訓練あるいは練習した場合（今回においては公開練習）、犬は「あの目標物に走ればいいんだな」と記憶する。しかし、競技本番にはそれがない。目標がないから犬は何をしたらいいのか解らなくなり立ち止まる。特に今回のスタジアムは目標となるものがない風景に向かっての前進だったので、失敗する犬が多かった。

DSH-Spezial:

服従のどの課題が難しいとあなたは思いますか？その理由は？

Haruo Masuda

すべての課題。

DSH-Spezial:

服従のどの課題がやさしいと思いますか？その課題の結果はどうでしたか？

Haruo Masuda

先の質問で答えたとおり、簡単な課題はないと思います。ただし結果として休止が V 73%, SG 18%と抜きんでて優秀な成績でした。

DSH-Spezial:

成績、評価に関係なく、今大会であなたが特別に本質的に素晴らしいと感じた犬を 2、3 頭紹介することが出来ますか？

Haruo Masuda**Furia Drapa**

いかなる時でも途切れない集中力（それは例えば座った後、ハンドラーが戻ってくるまで 1mm たりとも視線をそらさずにハンドラーを注視する）。スピードと各課題実行に必要な先天的とさえ感じる技術（それは例えば正面に座るときのテクニックとハンドラーとの距離感。確実かつ素早いダンベルのくわえ上げ。ジャンプの踏み切り位置とそれに見合った跳躍力）、彼女のフィラデルフィアでの服従は正に別格でした。ジャンプに関しては美しさを感じた。

DSH-Spezial bedankt sich recht herzlich für das Interview und wünscht auch in den nächsten Jahren alles Gute!

DSH スペシャルのインタビューにお答えくださってありがとうございます。そして、今後のご多幸をお祈りいたします。